

第1学年 算数科学習指導案

	第2時	第1時
場 所	1年1組	1年2組
授業者	柘本 道代	林 勝子
児童数	22人	23人

1. 単元名 「たしざん」

2. 指導の立場

(1) 単元について

本単元のねらいは、次の通りである。(学習指導要領解説 算数編A (2) 加法, 減法)

(2) 加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。

ア 加法及び減法が用いられる場合について知ること。

イ 1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算の仕方を考え、それらの計算が確実にできること。

ウ 簡単な場合について、2位数などの加法及び減法の計算の仕方を考えること。

児童は、和が10以下の加法の計算、10以下の数の減法の計算、10より大きい数の構成、 $10+6$ や $12+3$ のような計算、3口の数の加法・減法及び加減混合の式と計算などの学習を通して、数に対する理解を深めてきている。

そこで、本単元では、これらの理解をもとに、1位数と1位数をたして和が11以上になる加法について学習する。ここでは、「10よりおおいかず」で学習した10といくつの考え方や、3口の数の計算で学習した加数分解の素地となる考え方を生かして、計算の仕方の指導に重点を置き、くり上がりのある加法について理解させていく。

1位数どうしのくり上がりのある加法の基本的な考え方は、くり上げて「10といくつ」ととらえることである。はじめに $9+4$ や $8+3$ などの加数分解しやすい数値を取り上げ、「10といくつ」の見方がとらえやすいようになっている。加数分解は、被加数をもとにして加数を分解して10をつくるので計算の流れが自然だが、その流れのなかでは、10に対する補数を求めることと、加数とその補数と残りの数に分解することの2つの思考が同時に要求されるため、理解が困難な児童もいると考えられる。このような児童は数えたす方法をとっていることが多い。その方法から脱却させていくためには、数えたす途中で10ができていく点に着目し、「10のまとまり」を意識させ、10より大きい数の構成や見方の理解をもとにブロック操作と合わせて段階的に理解させていく必要がある。

なお、和が11以上になる計算の仕方として加数分解のほかに被加数分解もある。本単元では、 $4+8$ のように被加数分解の考え方がしやすい数値を扱うが、この段階で2つの方法を考えさせると混乱する児童もいるため、そのような児童には $4+8$ の場合も加数分解で考えさせてもよいことにする。

(2) 児童の実態

単元に入る前にレディネステストを行い、その結果をもとに正答率ごとに3つの段階に分け(※1)、実施人数に対する各段階の割合を下記の表に示した。

問 題	A	B	C
①問題文や絵からたし算の式を立て、答えを求める(3問)	5%	21%	74%
②20までの数の合成と分解(6問)	12%	43%	45%
③和が10以下の加法や和が10以上でくり上がりのない加法の計算(4問)	5%	12%	83%

※1 3つの段階は、他学年のstep学習に準じ、A (Assistant 正答率6割未満)、B (Basic 正答率6割以上9割未満)、C (Challenge 正答率9割以上)とした。

①は合併や増加の場面で立式できなかったり、ひき算の式にしてしまったりする児童が若干名いた。②は正答率が低く、10は□と3という問いに対し13と誤答したり、□は10と9という問いに対し1と誤答したりする児童が多かった。問題を理解できず、表示された2つの数を足したり引いたりしたためと思われる。③は正答率が高かった。

以上の結果から、たし算の場面をとらえて立式して答えを導き出したり、計算問題を解いたりする力は付いてきているが、20までの数の合成や分解の問題については理解度が低く、今後も習熟を図っていく必要がある。

3. 主題研との関わり

主体的に学習する子の育成
～ 基礎・基本の確かな定着を図る算数科学習 ～

<第1時（1年2組）本時>

（1）学習目標に応じた指導の工夫

第1時は、「関心・意欲・態度」を評価規準とする学習である。導入では、問題を読み「たし算言葉＝みんなで」に着目して加法で立式し、答えが10より大きくなるという見通しをもてるようにする。個人追究では、増加の場面でのブロック操作を活用したり、「10といくつ」という考え方を活用したりするなど、既習の学習を生かして計算の仕方を考えられるようにしたい。

（2）習熟度に応じた指導の工夫

A	B	C
考えがもてない児童には、一緒にブロックを操作しながら、9にいくつたすと「10のまとまり」が作れるかを考えられるようにする。	数えたす方法をとっている児童には、10より大きい数の数え方を想起させ、ブロックを使って「10のまとまり」をつくるにはどうするとよいかを考えられるようにする。	自分で考えた計算の方法を説明できるようにする。また、他の方法も考えてみるよう声をかける。

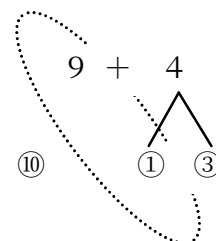
（3）伝え合う中で考えを深める指導の在り方

A	B	C
まとめの段階で、教師の示した話し方に沿って計算の仕方を説明できるようにする。声に出して繰り返し話すことで定着を図る。	個人追究後、ペア交流や全体交流でブロックを使って計算の仕方を説明できるようにする。「はじめに」「だから」の言葉を使えるようにする。	個人追究後、ペア交流や全体交流で「10のまとまり」を意識しながら計算の仕方を説明できるようにする。「はじめに」「だから」の言葉を使えるようにする。

<第2時（1年1組）本時>

（1）学習目標に応じた指導の工夫

第2時は、「数学的な考え方」を評価規準とする学習である。「問題提示→課題設定→個人追究→全体交流→まとめ・練習問題」という学習過程②（問題解決型）のパターンで学習する。導入では前時の学習を思い出させ、本時も答えが10より大きくなるという見通しをもてるようにする。個人追究では、前時の学習を生かして $8 + 3$ の計算の仕方をブロックや「さくらんぼ図」（※2）を使って考え、10に近い数（ここでは被加数の8）で「10のまとまり」を作ることのよさに気付かせていきたい。



※2 「さくらんぼ図」

（2）習熟度に応じた指導の工夫

A	B	C
8にいくつたすと「10のまとまり」が作れるか、そのために加数をいくつといくつに分解するかを考え、答えが出せるようにする。	ブロックを使って「10のまとまり」をつくる計算の仕方を説明できるようにする。	さくらんぼ図を提示し、○の中に入る数を考え、計算の仕方を説明できるようにする。

（3）伝え合う中で考えを深める指導の在り方

A	B	C
まとめの段階で、教師の示した話し方に沿って計算の仕方を説明できるようにする。声に出して繰り返し話すことで定着を図る。	個人追究後、ペア交流や全体交流で「10のまとまり」を意識しながら計算の仕方を説明できるようにする。「はじめに」「だから」の言葉を使えるようにする。	個人追究後、ペア交流や全体交流で「さくらんぼ図」を使って計算の仕方を説明できるようにする。「はじめに」「だから」の言葉を使えるようにする。

4. 単元指導計画 (全9時間)
＜既習の内容との関連と本単元の評価規準＞
【前単元までに身に付けてきた内容】

1年「あわせていくつ ふえるといくつ」 ・加法 (合併, 増加) の意味と式表示 ・和が10以下の加法の計算 1年「10よりおおきいかず」 ・20までの数の構成 ・10+6や12+3のような計算 1年「3つのかずのけいさん」 ・3口の数の加法, 減法及び加減混合の式と計算

【本単元の評価規準】

関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
・くり上りのある加法の計算を用いて身のまわりの問題を解決するなど, 加法を生活や学習のなかで活用しようとしている。	・くり上りのある加法の計算方法を10のまとまりをつくることに着目して考える。 ・くり上りのある加法の計算方法を半具体物の操作や言葉, 数, 式, 図などを使って説明する。	・1位数と1位数をたして, 和が11以上になるくり上りのある加法の計算が正しくできる。	・1位数と1位数をたして, 和が11以上になるくり上りのある加法の計算方法がわかる。

【今後の学習へのつながり】

1年「ひきざん」 ・10いくつかから1位数をひいて, 差が1位数になる減法の計算 「ずをつかってかんがえよう」 ・順序数の加法, 減法 ・異種の量の加法, 減法 ・求大の場面の加法 ・求小の場面の減法
--

小単元 時	たしざん			たしざんカード	カードゲーム		れんしゅう		
中心 問題	1 (2組・本時)	2 (1組・本時)	3	4	5	6	7	8	
	9にんであそんでいます。そこに4にんやってきました。みんなでなんにんになったでしょう。	8+3のけいさんのしかたをいましょう。	りすがきのうえに4ひきます。そこに8ひきました。みんなでなんひきになったでしょう。	りんごがちいさいかごに7こ, おおきいかごに8こあります。あわせるとなんこになるでしょう。	こたえがおなじになるカードに, おなじいろをぬりましょう。	けいさんカードをつかって, ゲームをしましょう。	けいさんカードをつかって, ゲームをしましょう。		
評価規準	これまでの学習をもとに, くり上りのある加法の計算の仕方を考えようとしている。(関心・意欲・態度)	被加数が8や7の場合も, 前時の被加数が9の場合と同じように10のまとまりを作ることに着目して考えている。(数学的な考え方)	1位数と1位数をたして, 和が11以上になる加法の計算のしかたを理解している。(知識・理解)	1位数と1位数をたして, 和が11以上になる加法の計算を加数分解や被加数分解でできる。(技能)	答えが同じになるカードはどのように並んでいるのかを進んで考えようとしている。(関心・意欲・態度)	ルールを守って, 進んでゲームに取り組もうとしている。(関心・意欲・態度)	1位数と1位数をたして, 和が11以上になる加法の計算が確実にできる。(技能)	1位数と1位数をたして, 和が11以上になる加法の計算が正しくでき, それを活用して問題を解決できる。(技能)	
授業展開	一斉	② 問題解決型 一斉	① 習得型 一斉	① 習得型 一斉	② 問題解決型 一斉	一斉	一斉	一斉	
主な つまづき	10に対する補数を求め, 加数をその補数と残りの数に分解するということが理解できない。	10に対する補数を求め, 加数をその補数と残りの数に分解するということが理解できない。	加数分解と被加数分解の2つの方法を考えると, 混乱してしまう。	加数分解と被加数分解の2つの方法を考えると, 混乱してしまう。どちらの方法がよいのか考えることができない。	1位数と1位数をたして, 和が11以上になる加法の計算に時間がかかる。計算カードのきまりが見つけられない。	1位数と1位数をたして, 和が11以上になる加法の計算に時間がかかる。	1位数と1位数をたして, 和が11以上になる加法の計算に時間がかかる。	1位数と1位数をたして, 和が11以上になる加法の計算に時間がかかる。	
本 時 の 展 開	1 問題を理解する。 2 課題をつかむ。 こたえが10より大きくなるたしざんのけいさんをしよう。 3 考えをもつ。 A 考えがもてない児童には, 一緒にブロックを操作しながら, 9にいくつたすと10のまとまりが作れるかを考えられるようにする。 C 自分で考えた計算の仕方を説明できるようにする。また, 他の方法も考えてみるように声をかける。 4 考えを交流する。 ・自分の考えた方法をそれぞれ説明する。 ・ブロックやさくらんぼ図を使った「9+4」の計算の説明の仕方を知る。 5 まとめる 10のまとまりをつくってけいさんするとよい。 6 練習問題に取り組む。 P100鉛筆1	1 問題を理解する。 2 課題をつかむ。 8+3のけいさんのしかたをかんがえよう。 3 考えをもつ。 Aブロックを使って, 8にいくつたすと10のまとまりが作れるか, そのために3をいくつといくつに分解するかと一緒に考え, 答えを出す。 Cさくらんぼ図を提示し, ○の中に合う数を考えられるようにする。 4 考えを交流する。 10のまとまりをつくってけいさんする。 5 まとめる。 10のまとまりをつくってけいさんするとよい。 6 練習問題に取り組む。 ・ P101鉛筆2 (被加数が8のたし算) ・ P101鉛筆3 (被加数が7, 8, 9のたし算)	1 問題を理解する。 2 課題をつかむ。 うしろのかずがおおきいときの, たしざんのけいさんのしかたをおぼえよう。 3 考えをもつ。 A前時と異なり加数の方が10に近い数であることに目を向けさせる。8にいくつたすと10のまとまりが作れるか, そのために4をいくつといくつに分解するかと一緒に考え, 答えを出す。 C被加数分解を行っている児童には, そのよさに気付かせるとともに, 計算の仕方が説明できるようにする。 4 考えを交流する。 ・ブロックとさくらんぼ図でそれぞれ説明する。 ・さくらんぼ図を使った「4+9」の計算の説明の仕方を知る。 5 まとめる。 大きいかずで10のまとまりをつくるとよい。 6 練習問題に取り組む。 P101鉛筆4	1 問題を理解する。 2 課題をつかむ。 7+8のようなたしざんのこたえをもとめよう。 3 考えをもつ。 4 考えを交流する。 5 まとめる。 どちらのかずで10のまとまりをつくってもよい。 6 練習問題に取り組む。 P101鉛筆5 ・ 6+7を加数分解で計算するか被加数分解で計算するかを決め, さくらんぼ図で計算の仕方を説明する。 ・ 残りの3問は各自で計算する。 Aどちらで計算してよいかわからない児童には加数分解で考えるように指導する。 C補充問題を進める。	1 問題を理解する。 2 課題をつかむ。 じゅんじょよくならんだカードのひみつをみつけよう。 3 考えをもつ。 A計算カードの並び方のきまりに気付かせ, 答えを素早く書き込めるようにする。 C答えが同じになるカードが斜めに並んでいることだけでなく, 被加数や加数の増減に気付けるようにする。 4 考えを交流する。 ・ 答えが同じになるカードは斜めに並んでいる。 ・ 斜めに見ると, 前の数が1ずつ減ると, 後ろの数は1ずつ増える。 ・ たてに見ると, 前の数は同じで, 後ろの数が1ずつ増えている。 ・ よこに見ると, 後ろの数は同じで, 前の数は1ずつ増えている。 ・ こたえが11になるカードがいちばん多い。 ・ こたえが18になるカードは1枚しかない。	1 問題を理解する。 2 課題をつかむ。 ゲームのやりかたをおぼえよう。 3 ゲームのやり方を知る。 ・ 大ききくらべ カードを出すときに「4+7の計算をします。7に4の中の3をたして10。10と1で11です。」とお互いに言って大きき比べをする。 ・ カードとり 答えが15になるカードをさがし, 見つけたら「9+6は9に6の中の1をたして10。10と5で15です。」と言えるようにする。 4 ゲームをする。	1 問題を理解する。 2 課題をつかむ。 はやくたくさんけいさんしてカードをとろう。 3 ゲームをする。 ・ 大ききくらべ ・ カードとり 4 ゲームをする。	1 習熟問題に取り組む。 P104 れんしゅう 1. 計算練習 2. 被加数分解を適用しやすい文章問題。 3. 加数分解を適用しやすい文章問題。 2 評価問題に取り組む。	
	身に付けさせたい表現	ブロックで考えました。 9+4の計算をします。 はじめに, 10のまとまりを作ります。9に4のなかの1をたして10。10と3で13。 だから, 答えは13になります。	ブロックで考えました。 8+3の計算をします。 はじめに, 10のまとまりを作ります。8に3のなかの2をたして10。10と1で11。 だから, 答えは11になります。	さくらんぼ図で考えました。 4+8の計算をします。 後ろの数が大きいので, 8に4のなかの2をたして10。10と2で12。 だから, 答えは12になります。	さくらんぼ図で考えました。 7+8の計算をします。 7に8のなかの3をたして (8に7のなかの2をたして) 10。10と5で15。 だから, 答えは15になります。				
	既習学習の活用	・10に対する補数 (□と□で10) ・20までの数の合成・分解	・加数分解 ・10に対する補数 (□と□で10) ・20までの数の合成・分解	・加数分解 ・10に対する補数 (□と□で10) ・20までの数の合成・分解	・加数分解, 被加数分解 ・10に対する補数 (□と□で10) ・20までの数の合成・分解	・加数分解, 被加数分解 ・10に対する補数 (□と□で10) ・20までの数の合成・分解	・加数分解, 被加数分解 ・10に対する補数 (□と□で10) ・20までの数の合成・分解	・加数分解, 被加数分解 ・10に対する補数 (□と□で10) ・20までの数の合成・分解	・加数分解, 被加数分解 ・10に対する補数 (□と□で10) ・20までの数の合成・分解

4. 単元指導計画（全8時間）

<既習の内容との関連と本単元の評価規準>

【前単元までに身に付けてきた内容】

1年「あわせていくつ ふえるといくつ」
・加法（合併，増加）の意味と式表示
・和が10以下の加法の計算
1年「10よりおおきいかず」
・20までの数の構成
・10+6や12+3のような計算
1年「3つのかずのけいさん」
・3口の数の加法，減法及び加減混合の式と計算

【本単元の評価規準】

関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
くり上がりのある加法の問題をういて身のまわりの問題を解決するなど，加法を生活や学習のなかで活用しようとしている。	くり上がりのある加法の計算方法を10のまとまりをつくることに着目して考える。くり上がりのある加法の計算方法を半具体物の操作や言葉，数，式，図などを使って説明する。	1位数と1位数をたして，和が11以上になるくり上がりのある加法の計算が正しくできる。	1位数と1位数をたして，和が11以上になるくり上がりのある加法の計算方法がわかる。

【今後の学習へのつながり】

1年「ひきざん」
・10いくつから1位数をひいて，差が1位数になる減法の計算
「ずをつかってかんがえよう」
・順序数の加法，減法
・異種の量の加法，減法
・求大の場面の加法
・求小の場面の減法

小単元	たしざん				たしざんカード	カードゲーム		れんしゅう
時	1 (2組・本時)	2 (1組・本時)	3	4	5	6	7	8
中心問題	9にんであそんでいます。そこに4にんやってきました。みんなでなんにんになったでしょう。	8+3のけいさんのしかたをいいます。	りすがきのうえに4ひきいます。そこに8ひききました。みんなでなんびきになったでしょう。	りんごがちいさいかごに7こ，おおきいかごに8こあります。あわせるとなんこになるでしょう。	こたえがおなじになるかあどに，おなじいろをぬりましょう。	けいさんカードをつかって，ゲームをしましょう。	けいさんカードをつかって，ゲームをしましょう。	
評価規準	これまでの学習をもとに，くり上がりのある加法の計算の仕方を考えようとしている。（関心・意欲・態度）	被加数が8や7の場合も，前時の被加数が9の場合と同じように10のまとまりを作ることに着目して考えている。（数学的な考え方）	1位数と1位数をたして，和が11以上になる加法の計算のしかたを理解している。（知識・理解）	1位数と1位数をたして，和が11以上になる加法の計算を加数分解や被加数分解でできる。（技能）	答えが同じになるカードはどのように並んでいるのかを進んで考えようとしている。（関心・意欲・態度）	ルールを守って，進んでゲームに取り組もうとしている。（関心・意欲・態度）	1位数と1位数をたして，和が11以上になる加法の計算が確実にできる。（技能）	1位数と1位数をたして，和が11以上になる加法の計算が正しくでき，それを活用して問題を解決できる。（技能）
授業展開	一斉	②問題解決型 一斉	①習得型 一斉	①習得型 一斉	②問題解決型 一斉	一斉	一斉	一斉
主なつまづき	10に対する補数を求め，加数をその補数と残りの数に分解するということが理解できない。	10に対する補数を求め，加数をその補数と残りの数に分解するということが理解できない。	加数分解と被加数分解の2つの方法を考えると，混乱してしまう。	加数分解と被加数分解の2つの方法を考えると，混乱してしまう。どちらの方法がよいのか考えることができない。	1位数と1位数をたして，和が11以上になる加法の計算に時間がかかる。計算カードのきまりが見つけられない。	1位数と1位数をたして，和が11以上になる加法の計算に時間がかかる。	1位数と1位数をたして，和が11以上になる加法の計算に時間がかかる。	1位数と1位数をたして，和が11以上になる加法の計算に時間がかかる。
本時の展開	1 問題を理解する。 2 課題をつかむ。 こたえが10よりおおきくなるたしざんのけいさんのしかたをかんがえよう。 3 考えをもつ。 A. 数えたす方法をとっている児童には，ブロックを使って，9にいくつたすと10のまとまりが作れるかを考えさせ，一緒に操作をする。 C. 自分で考えた計算の仕方を説明できるようにする。また，他の方法も考えてみるように声かけをする。 4 考えを交流する。 ・自分の考えた方法をそれぞれ説明する。 ・ブロックやさくらんぼ図を使った「9+4」の計算の説明の仕方を知る。 5 まとめる ・10のまとまりをつくってけいさんするとよい。 6 練習問題をする。p.100 えんぴつ1	1 問題を理解する。 2 課題をつかむ。 10のまとまりをつくってからけいさんしよう。 3 考えをもつ。 A. ブロックを使って，8にいくつたすと10のまとまりが作れるか，そのために4をいくつといくつに分解するかを一緒に考え，答C. ブロック操作しながら計算の仕方を説明できるようにする。また，さくらんぼ図を提示し，□の中に合う数を考えさせる。 4 考えを交流する。 5 まとめる。 10のまとまりをつくってけいさんしよう。 6 練習問題をする。 ・p.101 えんぴつ2（被加数が8のたし算） ・p.101 えんぴつ3（被加数が7，8，9のたし算）	1 問題を理解する。 2 課題をつかむ。 うしろのかずがおおきいときの，たしざんのけいさんのしかたをかんがえよう。 3 考えをもつ。 A. 前時と異なり加数の方が10に近い数であることに目を向けさせる。8にいくつたすと10のまとまりが作れるか，そのために4をいくつといくつに分解するかを一緒に考え，答えを出す。 C. 被加数分解を行っている児童には，そのよさに気付かせるとともに，計算の仕方が説明できるようにする。 4 考えを交流する。 ・ブロックやさくらんぼ図でそれぞれ説明する。 ・さくらんぼ図を使った「4+9」の計算の説明の仕方を知る。 5 まとめる。 大きいかずで10のまとまりをつくるとよい。 6 練習問題をする。 ・p.101 えんぴつ4	1 問題を理解する。 2 課題をつかむ。 7+8のようなたしざんのけいさんのしかたをかんがえよう。 3 考えをもつ。 4 考えを交流する。 5 まとめる。 どちらのかずで10のまとまりをつくってもよい。 6 練習問題をする。 p.101 えんぴつ5 ・6+7を加数分解で計算するか被加数分解で計算するかを決め，さくらんぼ図で計算の仕方を説明する。 ・残りの3問は各自で計算する。 A. どちらで計算してよいかわからない児童には加数分解で考えるように指導する。 C. 補充問題を進める。	1 問題を理解する。 2 課題をつかむ。 じゅんじょよくならんだカードのひみつをみつけよう。 3 考えをもつ。 A. 計算カードの並び方のきまりに気付かせ，答えを素早く書き込めるようにする。 C. 答えが同じになるカードが斜めに並んでいることだけでなく，被加数や加数の増減にも気付かせる。 4 考えを交流する。 ・答えが同じになるカードは斜めに並んでいる。 ・斜めに見ると，前の数が1ずつ減ると，後ろの数は1ずつ増える。 ・たてに見ると，前の数は同じで，後ろの数が1ずつ増えている。 ・よこに見ると，後ろの数は同じで，前の数は1ずつ増えている。 ・こたえが11になるかあどがいちばんおおい。 ・こたえが18になるかあどは1まいしかない。	1 問題を理解する。 2 課題をつかむ。 ゲームのやりかたをおぼえよう。 3 ゲームのやり方を知る。 ・大ききくらべ カードを出すときに「4+7の計算をします。7に4の中の3をたして10。10と1で11です。」とお互いに言って大きさ比べをする。 ・カードとり 答えが15になるカードをさがし，見つけたら「9+6は9に6の中の1をたして10。10と5で15です。」と言えるようにする。 4 ゲームをする。	1 問題を理解する。 2 課題をつかむ。 はやくたたくけいさんしてカードをとろう。 3 ゲームをする。 ・大ききくらべ ・カードとり	1 習熟問題に取り組む。 p.104 れんしゅう 1. 計算練習 2. 被加数分解を適用しやすい文章問題。 3. 加数分解を適用しやすい文章問題。 2 評価問題に取り組む。
	ブロックで考えました。 9+4の計算をします。 はじめに，10のまとまりを作ります。9に4のなかの1をたして10。10と3で13。 おから 答えは13になります。 ・10に対する補数（□と□で10） ・20までの数の合成・分解	ブロックで考えました。 8+3の計算をします。 はじめに，10のまとまりを作ります。8に3のなかの2をたして10。10と1で11。 おから 答えは11になります。 ・加数分解 ・10に対する補数（□と□で10） ・20までの数の合成・分解	さくらんぼ図で考えました。 4+8の計算をします。 後ろの数が大きいので，8に4のなかの2をたして10。10と2で12。 だから，答えは12になります。 ・加数分解 ・10に対する補数（□と□で10） ・20までの数の合成・分解	さくらんぼ図で考えました。 7+8の計算をします。 7に8のなかの3をたして（8に7のなかの2をたして）10。10と5で15。 だから，答えは15になります。 ・加数分解，被加数分解 ・10に対する補数（□と□で10） ・20までの数の合成・分解	・加数分解，被加数分解 ・10に対する補数（□と□で10） ・20までの数の合成・分解	・加数分解，被加数分解 ・10に対する補数（□と□で10） ・20までの数の合成・分解	・加数分解，被加数分解 ・10に対する補数（□と□で10） ・20までの数の合成・分解	・加数分解，被加数分解 ・10に対する補数（□と□で10） ・20までの数の合成・分解

小単元	カードゲーム		れんしゅう
時	6	7	8・9
中心問題	けいさんカードをつかって、ゲームをしましょう。	けいさんカードをつかって、ゲームをしましょう。	
評価基準	ルールを守って、進んでゲームに取り組もうとしている。（関心・意欲・態度）	1位数と1位数をたして、和が11以上になる加法の計算が確実にできる。（技能）	1位数と1位数をたして、和が11以上になる加法の計算が正しくでき、それを活用して問題を解決できる。（技能）
授業展開	一斉	① 習得型 一斉	① 習得型 一斉
主な つまずき	1位数と1位数をたして、和が11以上になる加法の計算に時間がかかる。	1位数と1位数をたして、和が11以上になる加法の計算に時間がかかる。	1位数と1位数をたして、和が11以上になる加法の計算に時間がかかる。
本時の展開	1 問題を理解する。 2 課題をつかむ。 ゲームのやりかたをおぼえよう。 3 ゲームのやり方を知る。 ・ 大きさをくらべ カードを出すときに「4 + 7 の計算をします。7 に 4 の中の 3 をたして 10。10 と 1 で 11 です。」とお互いに言って大きさを比べをする。 ・ カードとり 答えが 15 になるカードをさがし、見つけたら「9 + 6 は 9 に 6 の中の 1 をたして 10。10 と 5 で 15 です。」と言えるようにする。 4 ゲームをする。	1 問題を理解する。 2 課題をつかむ。 はやくたたくけいさんしてカードをとろう。 3 ゲームをする。 ・ 大きさをくらべ ・ カードとり	1 習熟問題に取り組む。 P104 れんしゅう 1 計算練習 2 被加数分解を適用しやすい文章問題 3 加数分解を適用しやすい文章問題 2 評価問題に取り組む。
			評価テスト
身に付けさせたい表現			
既習学習の活用	・ 加数分解，被加数分解 ・ 10 に対する補数 （□と□で 10） ・ 20 までの数の合成・分解	・ 加数分解，被加数分解 ・ 10 に対する補数 （□と□で 10） ・ 20 までの数の合成・分解	・ 加数分解，被加数分解 ・ 10 に対する補数 （□と□で 10） ・ 20 までの数の合成・分解